

# 藤ノ森だより 特別号

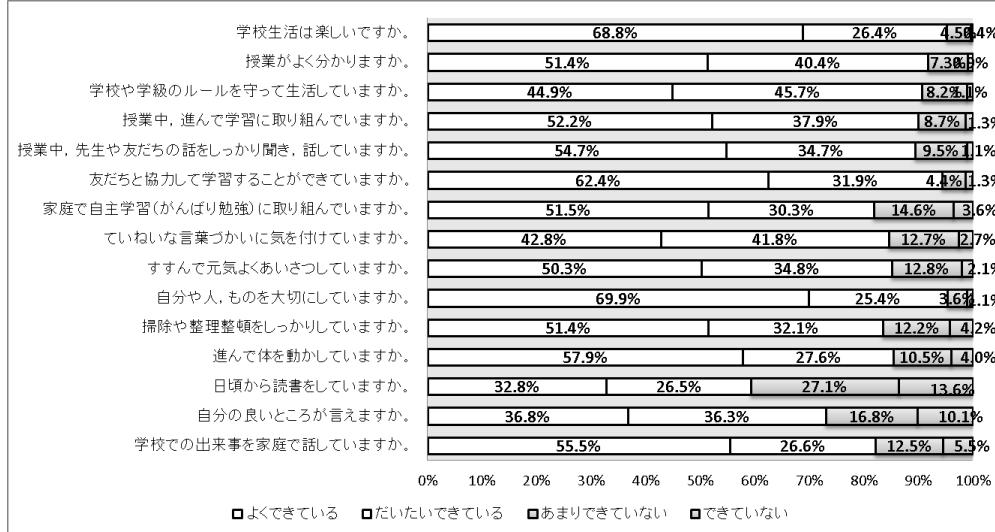


令和3年1月29日 京都市立藤ノ森小学校 校長 東原 幹人

すべては藤森の  
子どものために

平素より、本校教育活動にご理解、ご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。令和2年度第2回教育アンケートの結果をまとめましたのでお知らせします。

## 令和2年度 第2回教育アンケート（児童）



### すすんで学習する子

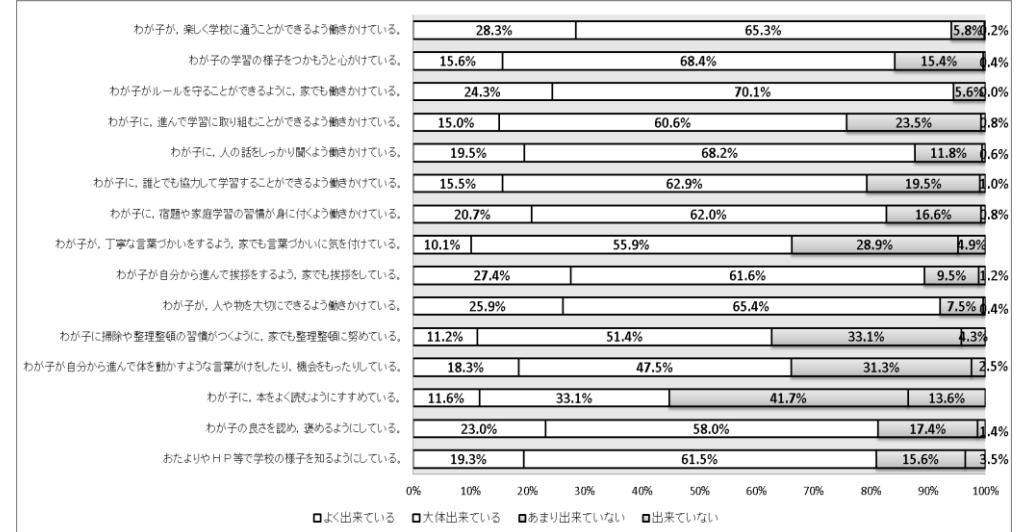
授業中の学習に関する質問項目では、いずれの質問にも9割以上の子どもたちが「できている」と答えています。「学校生活が楽しい」と答えた子どもも95.2%で、子どもたちが前向きに学習に取り組んでいることが分かります。家庭学習に関しては前回とほぼ同じ割合で8割以上の子どもたち、保護者の皆様が「できている」と答えています。保護者の皆様の温かい見守りが、子どもたちのがんばりにつながっているのだと考えられます。

読書に関する質問項目では、「(児童) 日頃から読書をしていますか」59.3%、「(保護者) わが子によく本を読むように進めている。」44.7%と、「できている」という答えが前回を下回る結果となりました。学校では今年度、授業時間確保のため朝の読書タイムがなくなり、本に触れる機会が減ったことも理由として考えられます。読書は国語力や想像力を高めるだけでなく、ストレスを解消したり視野を広げたり、子どもたちにとっても良いことばかりです。1日10分・20分でも、本に親しむ時間をとつていければと思います。

### かぎりなくやさしい子

「自分の良いところが言えますか。」の設問では、「言える」と答えた子どもも73.1%で、第1回の68.5%と比べると少し増えています。保護者や教職員は前回と同じくらい「子どもの良さを認め、褒めている」と答えています。引き続き積極的に良さを見つけ、認め褒めていくことが大切と考えます。また子どもたちが何かすごいこ

## 令和2年度 第2回教育アンケート（保護者）



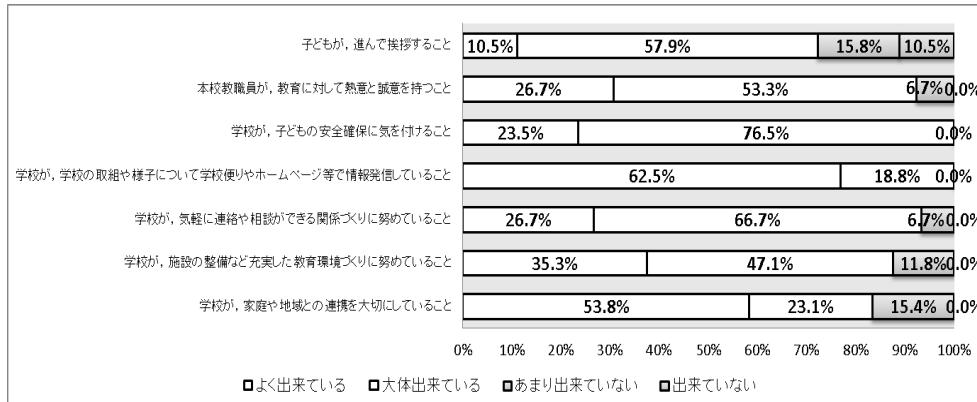
とをしたときだけではなく、「友だちと仲良くできる」「『ありがとう』や『ごめんなさい』が素直に言える」「ルールやマナーを守っている」等々、当たり前のように実は素晴らしい姿もたくさん見られます。様々なことに目を向け、認めることで価値づけていきたいと思います。さらに自己肯定感を高めるためには、子どもたちが物事を自分で考え決める場を設定することも有効です。学校でも授業や生活の中で意図して設定するようにしていきます。保護者の皆様におかれましても、子どもたちに寄り添った関わりを引き続きよろしくお願いします。

「自分や人、ものを大切にしている」と答えた子どもたちは95.3%、また、相手のことを敬うことにつながる「ていねいな言葉づかいに気を付けている」と答えた子どもたちは84.6%でした。自分も周りも大切にという意識が高まっているといえます。今後も、私たち大人がお手本となり、ていねいな言葉づかいで働きかけをしていこうと思います。

### だれとでもつながる子

今年度は保護者の皆様や地域の皆様に学校に来ていただきて、直接子どもたちの様子を見ていただいたり、一緒に活動したりするような取組に制限をかけなければならなくなりましたが、お便りやホームページ等から学校の様子を知ろうとしてくださっていることが分かります。児童アンケート「学校での出来事を家庭で話していますか。」では82.1%の子どもたちが「できている」と答えています。家族で過ごすことが増えたことで、より多くの関わりを持つ時間が増えたのではないでしょうか。(裏面へ続く)

## 令和2年度 第2回教育アンケート（地域）



### だれとでもつながる子

～続き～

挨拶については、85.1%の子どもたちが「できている」と答えている一方で、地域アンケートでは「できている」という答えが68.4%でした。前回のアンケートと比べて変化はありませんでした。挨拶はコミュニケーションの第一歩。気持ちの良い挨拶は人間関係に良い影響を及ぼします。そして子どもたちは地域で育っていきます。地域の方には登下校の見守りを初め、コロナ禍でも子どもたちのためにと、様々な取組の中で関わってくださっています。子どもたちがより良い人間関係を培い、豊かな人生を歩んでいくことができるよう、意識して声をかけていこうと考えます。また私たち大人が、気持ちの良い挨拶をする姿を子どもたちに示していこうと思います。

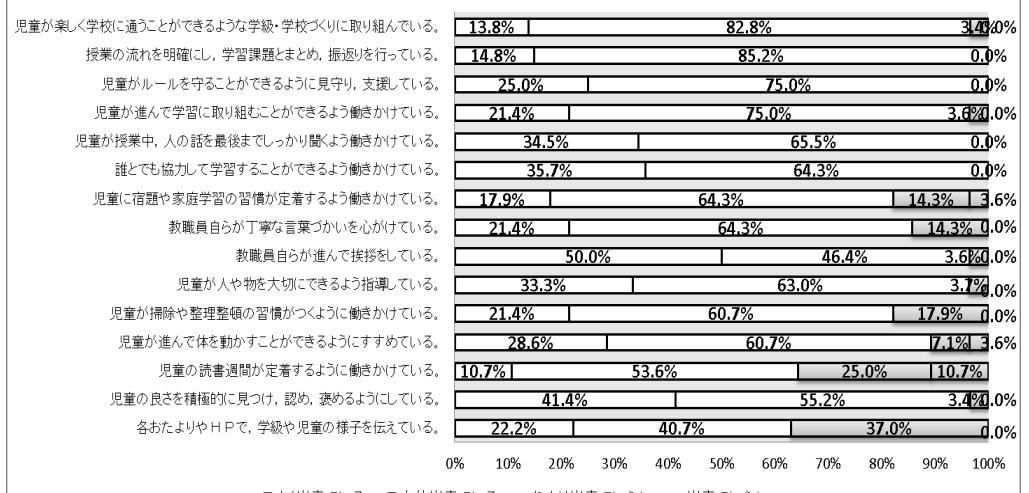
### しなやかで元気な子

85.5%の子どもたちが「進んで体を動かしている」と答えました。これは例年とほぼ同じ数値です。学校でも休み時間や放課後、元気に運動場で遊ぶ子どもたちの姿を見かけます。体育の学習以外にも休み時間にクラスみんなで遊んだり、運動委員会によるイベントに参加したりと、様々な取組の中でも楽しみながら体を動かしています。体を動かすことは体力向上だけでなく、人（友だち）と関わりながら体を動かすことで、ルールを守り、自分勝手なふるまいを抑えて友だちとコミュニケーションをとることを覚え、協調性や社会性を身に付けることができます。体を動かすことは心の成長にもつながっているということを踏まえ、これからも積極的に働きかけていただければと思います。

自由記述欄にはたくさんのご意見を寄せていただきありがとうございました。いただいたご意見をもとに、教職員一同力を合わせ、今後の教育活動に取り組んでまいります。紙面の都合で一部のみご紹介させていただきます。



## 令和2年度 第2回教育アンケート（教職員）



### 自由記述欄

- 木曜日以外は6時間授業で、毎日疲れて帰ってきてている。来年度もコロナの影響で、今年度と同じような授業時間帯になるのかどうか心配している。
- コンピュータの活用も子どもたちには今特に必要な力になるでしょうから、前向きに楽しんで身に付けてほしいです。
- オンラインでの授業になった場合、うまく対応できるか不安があります。
- 1日の時間数が増え、ランドセルで持つて行く教科書が増えたため、通学時重くて大変そうです。体を守るためにも「置き勉」を検討していただけないでしょうか。
- 漢字検定や人権月間の標語等、様々な取組ありがとうございます。放送委員会の話もよくします。工夫した取組に子どもたちも興味を持っています。
- 声をかけても反発して怒ることが多い。素直に受け入れやすい声のかけ方などあればと思います。
- 働きかけているつもりでも、本人の心に響いていない気がするので、アプローチの仕方や、親自身の感情のコントロールが必要と感じます。
- 学校のホームページがこまめに更新されているので、わが子の学年だけでなく学校全体の様子を、毎日子どもと見て会話するのが楽しみの一つとなっています。
- コロナ禍の状況下で、ニュースを見なかったわが子が毎日ニュースを見るようになりました、正しい知識を得たり、日本だけでなく世界のことも知るようになりました。
- みさきの家の宿泊学習がなくなりましたが、その代用としての野外活動体験を、子どもはとても楽しみにしていました。その他にも百人一首等、本当に頑張っています。恒例行事がなくなることは親にとって寂しいことですが、どんな些細なことでも楽しめる子どもたちなんだ実感し、色々なことができない状況ではありますが、何か楽しみにできる取組をしていただきたいと思っています。
- 子どもが苦手な整理整頓は一緒にやろうと思いつつ、つい我慢しきれず私だけでやってしまうことが多く反省しています。私自身がゆとりを持ち子どもと接することができる年にしたいと思っています。
- 1クラスの児童の数が多く、机の間隔がどうしても狭いように思います。特に給食時間（配膳・歯みがき時含む）マスクを外すときには特に留意して見ていただきたいです。